



校長便り（職員編）

呉市立阿賀小学校
安宗 誠

子供の思考に寄り添える教師であいたい

次のような算数の授業でのエピソード（後述の文献から抜粋）から、どのようなことを思われますか？

「1人にみかんを2こずつ、3人にあげるには、みかんは全部でいくついるでしょうか。」という問題。普通なら「 $2 \times 3 = 6$ 」でしょうが、ある子が「 $3 \times 2 = 6$ 」と答えてバツになったそうです。

その子に、「 3×2 」にしたわけを尋ねたところ、「みかんを2つずつあげるのに、Aさん、Bさん、Cさんに1つでもはやく手渡したいから、とりあえず1人に1こずつあげることにして、それを2回繰り返すので、「 3×2 」にしました。」と……。

（堤未果 佐治晴夫著 『人はなぜ、同じ過ちをくりかえすのか』 清流出版）

話を聞けば、その子なりの理由が……。しかも、何とやさしいことか……。「 3×2 」という立式の中に、そこまで相手を思いやる気持ちが込められていたとは……。

その一方で、その思いを汲むことなく、容赦なくバツをしてしまう教師に自分になってはいないか？このエピソードから、改めて教師としての自分の有り様を振り返る機会をいただいたように思います。

「氷がとけると、何になる？」

期待する回答は、「水になる」なのでしょうが……、

「氷がとけると、春になる」

こんな答えに微笑み、うなずき返せる教師でありたいものです。